

会 議 録

1 会議名

安塚区地域協議会地域の課題検討分科会（B）

2 議題（公開・非公開の別）

（1）協 議（公開）

①町内会長・自治会長との意見交換会から見えてくる地域活動（主にイベント）
について

②地域協議会委員の考える地域活動（集落の維持）を行う上での課題について

③地域協議会で協議すべき内容（自主的審議事項）について

3 開催日時

平成30年1月16日（火）午後6時30分から午後7時35分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所3階301会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：池田嘉久（分科会長）、石田ひとみ、國保信夫、中島勝義
- ・事務局：國保班長、高島主事

8 発言の内容（要旨）

【國保班長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定及び内規に準じて分科会を開催することを確認
- ・委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議の進行及び会議録の確認：池田嘉久分科会長

【池田嘉久分科会長】

昨年の第8回地域協議会において、町内会長等との意見交換会で出た地域の課題は、町内会長等の意見であり、課題を協議する上では、私たち地域協議会委員の意見も必要ではないかということで、地域協議会委員を2つの分科会に分け、地域協議会で協議すべき内容を検討することとなった。この後、私たちの分科会としての人手不足に対する意見をまとめて、全体会で検討していくため、活発な意見交換をお願いしたい。

まず、次第の「1 町内会長・自治会長との意見交換会から見えてくる地域活動（主にイベント）を行う上での課題について」を見ると、意見交換会を通して、地域活動を行う上で、どの集落も共通して人手が不足しているということを改めて認識することができた。

2つの分科会を実施するに当たり、昨年12月7日に会長、両分科会長、事務局と事前に打合せをした。その中で、地域活動を行う上での人手不足については、ボランティアが必要であり、そのためには、集落の受入態勢の構築が必要であるという意見や事業の規模を縮小した方が良いという意見があった。その中で、ボランティアをお願いするのであれば、いつ、どういった役割でボランティアを受け入れるのかを明確にしてボランティアを募集する、あるいは、NPO雪のふるさと安塚等に協力を依頼した方が良いという意見があった。また、集落出身者で安塚区外へ出た人やその家族を対象にして、協力依頼するという意見が出たことを参考に紹介する。

【石田ひとみ委員】

確かに、ボランティアを募るのであれば、安塚区でいつ、どういったイベントがあって、どういう役割で何人くらいのボランティアが必要なのかをまとめたカレンダーが必要である。朴の木自治会の棚田カフェを例にすると、花植えのボランティアが必要なのか、それとも、当日の運営スタッフとしてのボランティアが必要なのかなど、ボランティアの役割を明確にした方が良く思う。そして、イベントの後には、慰労会といったボランティアとの交流も必要である。ボランティアにも楽しんでもらい、集落に対して良い印象を持ってもらうことで、来年の活動につなげていけるのではないかな。

【池田嘉久分科会長】

やはり、ボランティアの役割を明確にするなど、引き受ける側の態勢を整えるということも重要なことである。

【石田ひとみ委員】

ボランティアは、その時限りではなく、他のイベント等にも参加を呼びかけ、集落の活動に協力してもらえる関係性を継続させることも重要ではないか。

また、自分に置き換えて考えると、ボランティアとして様々なイベントに参加してみたいが、自分が行っても役に立たないのではないかと不安に思っている人もいないかと思う。その場合、受入側の気持ちも大事で、ボランティアに来てくれた人が、実際、効率良く作業できなかったとしても、その人に対して、役に立たなかったと悪く思ってしまうはいけない。イベントの後のボランティアとの交流こそが今後の関係性の継続において、重要なことであると考えている。

【池田嘉久分科会長】

受け入れる側としては、イベントの後に実施するボランティアとの交流会が大変と感じているだろう。

【石田ひとみ委員】

イベントの後の交流会やボランティアに対するおもてなしを重荷に感じて、楽しめないということなら、交流会を実施するのは難しいが、そう思う人は全員ではないと思う。集落以外の人たちと話すのが好きな人もいると思うので、そういった人たちがうまくボランティアと交流してくれれば良いと考える。

【中島勝義委員】

最近では、どの集落もイベントの準備、運営で疲れてしまい、慰労会を実施しなくなっている。誰しも、慰労会は大事であると思っはいるが、朝早くから準備をしていて、その後に、ボランティアをもてなすとなると負担が大きく、交流会の開催について後ろ向きになってしまう。

【池田嘉久分科会長】

どこの集落も高齢化しているため、仕方ないことだと思う。

【中島勝義委員】

そういえば、大学生がイベントなどの手伝いに来ている集落がなかったか。

【國保信夫委員】

細野町内会が、高崎経済大学の学生と交流しており、細野町内会の春のイベントや灯の

回廊の時に学生が手伝いに来ている。イベントでの出店の際は、若い女性が販売しているため、活気があり、売れ行きが良いように感じる。

また、学生は、地域を勉強することが目的のため、細野町内会で学生が米づくりを経験している。細野町内会では、学生の田植えや草刈りの体験を行っているほか、学生との交流会も実施している。

【中島勝義委員】

細野町内会のように、大学や企業からイベント等を協力してもらえる関係性が築けている集落は、人手不足の問題はないと考えて良いのか。

【石田ひとみ委員】

そういう訳ではないと思う。

【中島勝義委員】

それでは、人手不足とは、地域の人の方次第で、ただ単にボランティアを集めれば良いということではないのではないのか。やはり、受入側である地域の方の考え方を整理する必要がある。

【池田嘉久分科会長】

先ほどの話でもあったが、交流会は大事だと認識してはいるが、準備等が大変なため、交流会を実施しないということもあり、やはり、受入側の考え方次第である。

意見交換会の時、直峰町内会が言っていたように、イベントの規模を縮小して、細々と実施することも1つの考え方である。

慰労会を実施しない場合、どういったことで楽しみの要素をつくったら良いのか。

【中島勝義委員】

私の集落では、去年の灯の回廊で、雪茶屋を実施しなかったが、キューピットバレイスキー場の手前の集落が実施していないのは、どうなのかという意見があった。今回、集落としては、今後も実施しないということになったが、結局、規模は小さくなってしまいが、有志で実施することとなった。

【石田ひとみ委員】

安塚町内会も同様である。集落全員参加ではなく、料理屋である多味家が中心となって雪茶屋を実施している。細々とした活動になるが、続けるということが大事である。

【池田嘉久分科会長】

船倉町内会も有志の団体での実施ではなかったか。

【國保班長】

これまでは、船倉町内会で実施していたが、平成28年に船倉町内会が分裂したため、それ以後、有志の団体での実施となった。

【池田嘉久分科会長】

先ほどの話に出た高崎経済大学は、細野町内会での活動に限るということか。安塚区内のほかの集落の事業等に協力してもらうことはできないのか。

【國保班長】

もともとは、地域づくり学科の中の1つの研究室から、過疎地域の勉強をするフィールドを提供していただけないかという話があり、当時、細野町内会がその話を受けて、現在に至っている。

【國保信夫委員】

細野町内会だけでなく、他の集落の事業等も協力してもらえないか働きかけるのも良いのではないか。

【中島勝義委員】

私の集落では、大学側から受入れの話があった時に断った経緯がある。

【國保班長】

様々な団体等から受入れに関する話があることは事実であるが、先ほどの話にあったとおり、集落の人が受入れの対応をするのが難しいということが難点である。受け入れるのであれば、交流会等のことも考えなければならないので、受入れが難しい集落がほとんどではないか。また、高崎経済大学だけをターゲットにするのではなく、地元の上越教育大学、県立看護大学や企業等に目を向けても良いと思う。最近では、ボランティア活動に力を入れている企業等がある。集落や地区において地域行事や共同作業を行う際、人手が不足する場合、企業・団体からボランティアを派遣する市の中山間地域支え隊という事業がある。市では、当事業で、集落と企業等をマッチングし、そのイベントだけでなく、草刈りなど集落の活動を応援してもらえる形にもっていきたいと考えている。人手が不足している集落については、当制度に手を挙げていただいて、企業等から申込みがあれば、企業等と親密な関係性を築ける可能性がある。

【池田嘉久分科会長】

そういった事業を活用するとなれば、自分たちの集落で、いつ、こういった事業があつて、何人くらいのボランティアが必要なのかということカレンダーのような形でまとめておく必要があるのか。

【國保班長】

そうである。1年間を通して、どの時期に、こういった作業があつて、こういうことができる人が何人必要といったように、具体的に提示していただければ、企業等に照会する。中山間地域支え隊事業のボランティアは、安塚区においては、伏野自治会のそばまつりに支え隊が入っており、他の区では、電気柵の設置と撤収や稲刈りイベントの運営にも支え隊が協力している。草刈りは、草刈り機を使用して行うが、特殊な作業になるため、募集しても希望する企業等はほとんどない。

【中島勝義委員】

人手の確保を考えると、何か実施しようとするときは、早めに計画してもらう必要がある。

【石田ひとみ委員】

自分たちの集落ではどこまでできて、どの部分を協力してほしいのかを明確にしておかなければならない。

【中島勝義委員】

その地域の会長がしっかりと計画を立て、集落の人たちに対して、こういった計画で事業を実施したいので、協力してほしいと諮らなければならない。計画を立てずに、集落の人たちに実施するかしないかと聞けば、人手不足の状況では、実施しないで良いのではないかとなってしまう。

【國保信夫委員】

イベントは1回休むと、再び立ち上げるのは大変である。

私の集落では、灯の回廊の時、もともと店をやっている人が雪茶屋を実施しており、ほかの人たちは、手伝い程度である。

【石田ひとみ委員】

最近、一般の人が食べ物を売る場合、保健所等に様々な申請をしなければならないので、もともと商売をしている人が実施してくれた方が良い。

【國保信夫委員】

少子高齢化で、動ける人が減っていく中、今までどおり事業を実施できる集落とできない集落がある。また、地域の中に、みんなを引っ張る主導者がいなければ、集落の活動はどんどん衰退していってしまう。

【中島勝義委員】

確かに、地域の活動は、会長の考え方次第である。

会長が輪番制の場合は、自分の番さえやり過ぎれば良いと考え、何もしない人がいる。

【石田ひとみ委員】

会長に自分から立候補している人は、ほとんどいないだろうから仕方ない。

【國保信夫委員】

私の集落の会長は輪番制だが、会長に就いた人は、一生懸命務めるため、集落中全員で会長を盛りたてている。

【中島勝義委員】

やはり、集落ごとに考え方、やり方は違う。

【國保信夫委員】

今、議論しているのは、意見交換会で出た課題について、どう対応していったら良いかということだったか。

【池田嘉久分科会長】

そうである。意見交換会を実施したことにより、どこの集落も地域活動において、人手が不足しているということが改めて認識できた。簡単に答えは出ないと思うが、地域協議会として解決策を検討している。今、2つのグループに分かれて議論しているが、今後、それぞれのグループの意見をまとめて、全体会において議論する予定である。

【國保信夫委員】

直峰町内会は、意見交換会の時に、イベントの継続について意見が分かれていると言っていたが、戸数も多く、若い人も多いと思うので、やる気があれば実施できると思う。朴の木自治会は、戸数が少ないものの、夫婦で集落の活動に参加し、一生懸命活動していると言っていたが、それが理想の姿だ。伏野自治会も小さい集落だが、全員で集まって活動しているため、老人会の運動会では成績は上位である。

【池田嘉久分科会長】

伏野自治会では、集落外に移り住んだ人から、伏野地域生涯学習センターの雪掘りに来てもらっている

【國保信夫委員】

それも1つの案だ。船倉町内会も、祭りの時は、浦川原区に移り住んだ人たちが手伝いに来ているという。

【中島勝義委員】

それも集落の外に出た人の考え方による。中には、集落から追い出されたと言う人もいる。

【國保信夫委員】

そうかもしれないが、中には、真心を持って手伝いに来てくれる人もいる。

【石田ひとみ委員】

集落での人間関係がうまくいかず、出て行った人や集落での役職等がわずらわしくて出ていった人もいるだろうが、集落外に移り住んだ人に協力の依頼をして、その中から何人かでも来てもらえれば良いのではないか。

【池田嘉久分科会長】

集落を出て行った人は、集落で生活をしてきた人だろうから、田んぼの草刈りや雪掘りについても心得ているだろう。産まれてすぐ出て行って、集落のことをよく分からない人もいるだろうが、そういう人たちもイベント等の時に来てもらって単純に楽しんでもらえれば良い。

【石田ひとみ委員】

とりあえず、ここに来てもらって、イベント等を楽しんでもらうのでも意味はあると思う。また、集落を出て、何年か経ってから、やはり田舎の方が良いと気持ちに変化している人もいるかもしれない。

【池田嘉久分科会長】

これまで、皆さんからいろいろな意見をいただき、まとめに入りたいと思うが、ほかに何か意見等はあるか。

【國保信夫委員】

町内会長等との意見交換会の時、町内会長協議会長から、これまで、それほど協議会の活動を認識していなかったが、今回、意見交換会を開催したことで、協議会の活動が

目に見えて分かって良かったとお褒めの言葉をいただいた。今回、協議会委員は発言しなかったが、今後は、委員も発言し、しっかりと意見交換したい。

【石田ひとみ委員】

人数が多かったため、集落の報告会のような会になってしまった。次回は、人数や実施方法を改善しなければならない。

【國保班長】

前回の地域協議会でもそういった意見が出ていた。意見交換会の実施方法については、また、次回、計画する時に検討をお願いしたい。

【國保信夫委員】

町内会長や自治会長だけでなく、安塚区の議員や企業と意見交換をすることも考えていきたい。

【中島勝義委員】

それも良いと思う。全体会でもそういった意見が出るのではないかな。

【高島主事】

今、意見交換会の話が出ているので、今日、お配りした次第に沿って、今後の予定について簡単に説明させていただく。

現在、地域協議会委員が2つの分科会に分かれて、地域協議会で協議すべき内容について検討している。この後、2月に開催予定の地域協議会全体会で2つの分科会で検討した、地域協議会で協議すべき課題や解決策等を議論していただき、地域協議会全体として、協議していく内容を決めていただく。もし、そういった内容がなければ、また、課題の洗い出しに向け、情報収集等していくこととなり、地域協議会として協議していく内容が決定すれば、自主的審議を開始することとなる。その場合、現状の把握、分析や他の地区の事例等を見ながら、課題解決のための手段、方法を検討していくこととなる。完全な解決策はないと思うので、あくまで、地域協議会の考える解決策ということで、町内会長やNPO雪のふるさと安塚等に、皆さんで試してみてもどうかという形で解決策を提示し、意見交換会を実施するという流れを考えている。

【池田嘉久分科会長】

それでは、まとめにはいる。

町内会等との意見交換会をとおして改めて分かった地域の課題としては、地域活動を

行う際の人手不足が挙げられる。私たちの分科会の対応策としては、まず、ボランティアを募集するためには、集落ごとに、いつ、どこで、ボランティアがどういった役割で、何人必要なかを具体的にまとめることが必要であること、そして、集落外に移り住んだ人に対して協力を依頼するということとし、今後、地域協議会として、どういった方法で協力依頼を呼びかけるのかなどを議論していきたいということでもとめてよいか。

（「はい」の声あり）

そのほかに何か意見等あるか。

（「なし」の声あり）

それでは、以上で本日の協議を終了する。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。